

# 西穂高岳独標

憧れの雪の穂高へ

2016年3月20日(日曜日)

L: やまたくお、鈴木H、鈴木M、古橋、佐藤、斎藤、J0、神谷

当初は1泊2日で西穂高岳ピストンの予定であったが19日の天気が雨予報であったため日帰りの西穂高岳独標に予定が変更となる。独標までということで、気がついたらメンバーが8名に！さすが穂高！私も北アルプスの雪山には行ったことがないのでちょっとミーハー気分で参加。しかも珍しい組み合わせのメンバーで交流山行のようでとても楽しかった。(私自身入会して以来、交流山行に参加したことないけど多分こんな雰囲気だろうなあ)これぞ山岳会の醍醐味かなと感じた。

前日20時に浜松を出発。1時過ぎに奥飛騨上宝の道の駅に到着。ジャンボテントを張り仮眠。私は1人車の中でそそくさと仮眠したが、しばらくテント組の楽しそうな笑い声が地響きとなり寝られなかった。

朝6時半に道の駅を出発し新穂高センターへ。すでにセンター前の駐車場は満車。すぐ下の温泉があるところの無料駐車場へ停める。そこもすぐに満車になってしまった。雪山とはいえロープウェイで気

軽に行ける人気スポットなんだなと驚かされる。



雨予報だった出発時の駅前

始発の9時のロープウェイに乗り込み西穂高口駅に到着。一気に標高1000m稼げてラッキー。一般客用に西穂高口駅から15分くらいは立派な歩道ができていたが少し滑りやすく注意が必要。



鈴木さんご夫妻は雪山は1年ぶりで鈴木Hさんに関しては登山自体が半年ぶりとのこと。お二人はやまたくおさんのフォローの元、二人のペースで登られる。一方、先行の斎藤&佐藤さんコンビはあっという間に見えなくなり、しばらくして空荷で下りてきた。西穂山荘に荷物を置いてきて、後方メンバーのザックを持ち、少しでも負担を軽くしてあげたいとのこと。(頼もしい!)

西穂山荘前はガスガス。3連休のため山荘前にはテントがたくさん張ってある。



ガスな西穂山荘前

途中、「山頂方面はいい天気ですよ」と下山中の方に言われる。鈴木さんご夫妻は、山荘で待機することになり、残りのメンバーで独標を目指す。山荘でアイゼンを装着し出発。ガスで視界はよくないが登山客がたくさんいるのでトレースもしっかりしていて迷う心配は全くない。



西穂丸山にて

西穂丸山を過ぎたあたりから時々青空が見え始める。時々ちらっと見える穂高が余計にかっこよく見え歓声があがる。



ピラミッドピークと独標

独標手前から岩稜帯となる。最後の一登りすると独標に到着。

すっかり青空になり下に雲海が広がり、笠ヶ岳・乗鞍岳も見える。目の前に続く穂高連峰が美しくかっこよくて私はそちらまで登りたくてウズウズしたが我慢、我慢。(いつか登るぞー!)



スムーズにスタスタ登る佐藤さん

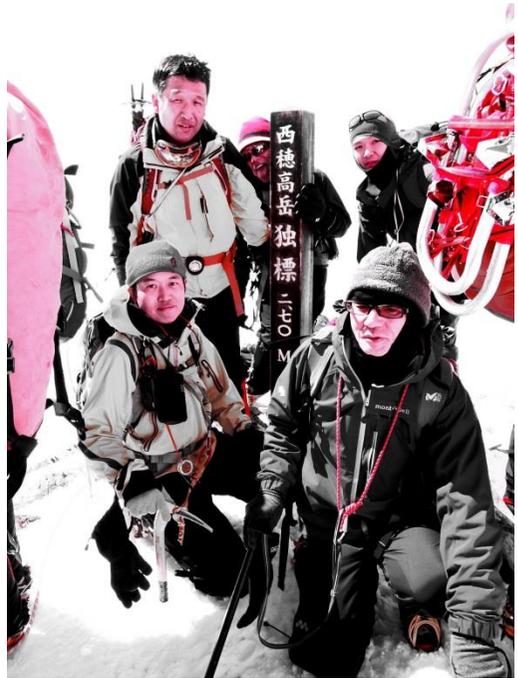


独標にて。知らない人のザック・・・



四つん這いで必死の古橋さんと後ろで優しく声かけするやまたくおさん♪

独標は激混み。コンビニの 2/3 くらいの広さに 30 人くらい登山客がごった返していた。標識前で集合写真もわずかな隙間をぬって無理矢理撮影って感じであった。



カメラがレトロモードに(´◇`;)  
でも味が出てる写真になってるカナ？

混雑のため 20 分くらい？待ってようやく下山開始。独標付近の岩稜帯はそんなに難しくはないが高度感に慣れていないと怖いかもしれない。古橋さんが「ここは日本じゃない！ここは南極だ。僕は今

南極にいるんだ！」とさらに肌を黒くさせて(疲労?酸欠?のため顔色が不良だった)叫んでいた。真後ろでやまたくおさんにつっつかれながらヨレヨレ歩かされている古橋さんが印象的だった。



**独標にはまだたくさんの人が**

丸山前からまたガスの世界へ。純白な雷鳥に初めて会えた。



**♥悶絶級に可愛い雷鳥♥**

西穂山荘で鈴木さん夫妻と合流し下山する。山荘はずっとガスで景色はみれなかったそう。でも山荘ラーメンを食べて温かく過ごせたようだ。



**今回ラスト山行になったJ0さん**

帰りは奥飛騨温泉郷ひらゆの森(500円)で温まり、私がどうしても山賊焼きが食べたい!とだだをこねていたら遠回りしてお店に寄ってくれた。古橋さん以外は山賊焼き定食を注文。噂のポリューミーで美味しい山賊焼き定食を食べ身も心も満たされ浜松に23時過ぎ到着する。



年齢・登山スタイル・登山の経験値・キャラもバラバラなメンバーだったが、みんな安全にまとまっておしゃべりしながらの山行で楽しかった。

(神谷 記)